

令和6年度第1回胎内市総合教育会議議事録

1 開会年月日 令和7年3月25日（火） 午後3時30分

2 開催場所 黒川庁舎 第1応接室

3 構成委員

市 長	井畑 明彦
教 育 長	中澤 毅
教 育 委 員	桐生 和文
教 育 委 員	佐藤 康広
教 育 委 員	森田 寿美子
教 育 委 員	佐藤 亜由美

4 事務局

学校教育課長	井上 正人
管理指導主事	池田 裕之
指 導 主 事	中野 忠弘
指 導 主 事	中村 祐一
学校教育課学校教育係参事	横内 和幸
学校教育課庶務係参事	佐藤 守
学校教育課庶務係主任	八幡 修平

5 傍聴人 2名

6 会議日程

次第1 あいさつ 胎内市長

次第2 協議内容

（1）胎内市立中学校の統合に関する方針の制定について

（2）その他

○ 学校教育課長

ただ今から、令和6年度第1回胎内市総合教育会議を開催いたします。

会議に先立ち、総合教育会議の位置付けについて説明させていただきます。

総合教育会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づき設置するもので、当市におきましても要綱を制定し、地方公共団体の長と教育委員会が円滑に、意思疎通を図り本市教育の課題及び目指す

姿等を共有しながら、同じ方向性のもと、連携して、効果的な教育行政を推進するため、協議、調整する場であります。

また、総合教育会議においての協議は、要綱の第2条にありますように、あらかじめこの法に規定されており、1として「大綱の策定」、2として「教育文化の振興を図るために重点的に講ずべき施策」、また、3として「児童生徒の生命または身体の保護のための、緊急措置」という事項について協議、調整し、市長と教育委員会とが合意を図っていくものとなっております。

本日の会議につきましては、教育の振興を図るため、重点的に講ずべき施策であります「胎内市立中学校の統合に関する方針（案）」について報告を受け、協議、調整を行うため、開催するものであります。

それでは、次第に沿いまして、会議を進めさせていただきます。

初めに、市長からご挨拶をいただきたいと思います。

次第1 あいさつ 胎内市長

○ 市 長

皆様、今日はただいま課長の方からありましたように、胎内市総合教育会議を開催させていただくわけですが、お忙しい中、教育委員の皆様にご参集を賜りまして大変ありがとうございます。

日頃から、次の世代を担う大切な地域の宝である児童生徒に対し、皆様方が非常に深い温かな思いを寄せてくださり、それがひいては胎内市の子どもたちの健やかな成長、そして人格形成に寄与していると、常々思っております。信頼する教育委員の皆様でございますので、大変ありがたく感じている次第でございます。

そして、今日のメインテーマと、その他がありますけれども、胎内市立中学校の統合に関する方針について、ということで開催されるわけでございます。

非常に重大な、大切なテーマであるというふうに、私自身そう思っておりますし、皆様方も、同様にそのように感じてくださっていることと思います。

私も、ある説明会に出て、市民の方々やその他の皆様とお話したときも申し上げましたが、一番大切なのは何か、それは、子どもたちの豊かな学びと健やかな成長、そのためにどうあるべきなのか、ここを根底に置きながら、話し合いを進めていくことが何より大切であると思っておりますし、絶対的な正解というものはどこにあるということではないとしても、いろいろ議論を深めていく中で、思いを寄せ合う中で、これが一番確からしい、望ましいやり方ではないかといったところが方針になって、そしてその先に進んでいく、このように認識をしている次第でございますので、今日、第1回ということでございますが、まずは第1回がそういった大切な事柄についての共通認識のもと、実りある会議であることを皆様とともに願いまして、開会にあたっての私からの挨拶とさせていただきます。

今日はどうぞよろしくお願いいたします。

○ 学校教育課長

それでは、協議に入らせていただきます。

ここからは、胎内市総合教育会議要綱に従いまして、市長が議長になりますので会議の進行をお願いいたします。

次第2 協議内容 (1) 胎内市立中学校の統合に関する方針の制定について

○ 市 長

それでは、これより着座にて、議長を務めさせていただきますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

初めに、傍聴の申請が出ておりますので、これを認めたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

<全員異議なし>

○ 市 長

ご異議ないとの声をいただきましたので、傍聴を認め進めさせていただきます。

それでは、協議内容の(1)「胎内市立中学校の統合に関する方針(案)」について、事務局から説明をお願いします。

○ 中村指導主事

それでは、お手元にごございます配付資料「胎内市立中学校統合に関する方針(案)」につきまして、説明させていただきます。

これまでの適正規模検討委員会、再編検討委員会での検討を経て、全員協議会、パブリックコメント、各小学校区での説明会等を通して、教育委員会が作成した「胎内市立中学校統合に関する方針(案)」について、事前に皆様に配付しておりますので、簡潔に説明させていただきます。

初めに、1ページ「Ⅰ はじめに」は、方針案の策定に係る経緯を説明した内容となっております。

ご存じの通り、全国的に少子化が進んでおり、胎内市においても、出生数の減少は、全国と同様の減少傾向が見受けられます。

将来にわたる児童生徒数の減少に対応し、望ましい教育環境の整備に取り組むため、令和2年12月に胎内市立小中学校の適正規模に関する検討委員会に、「胎内市における適正規模及び適正配置に関する基本的な考え方等について」諮問し、令和4年4月に、1ページの中段に記載しておりますが、次のような答申を受けました。

2つ目の白丸になりますが、特に「中学校においては、今後、小規模化の問題が、特に懸念される状況を踏まえ、クラス替えが可能な1学年2学級以上を目安とする。なお、1学年2学級が実現できない場合でも、1学級20人以上となることが望ましい。しかし、今後、1学級20人を大きく下回る状況が続くなど、少子化に伴う生徒数の減少が見過ごせない状況が予想される場合、統合を含めた学校のあり方を検討するタイミングを逸することなく、速やかに検討する。」という内容でありました。

その後、胎内市立中学校の生徒数の推移を調査したところ、3ページの表に記載しておりますように、令和14年度以降、複数の中学校で、1学級20人を大きく下回る状況が続くことが予想されることを踏まえ、答申内容に示す通り、およそ10年後を見据え、中学校のあり方について検討する必要があるという考えに至りました。

そこで、令和5年10月に、胎内市立中学校再編検討委員会を立ち上げ、市内中学校のあり方について、「4中学校統合」、「小規模校3校を統合」、「小中併設校」の選択肢を中心に、具体的な検討を重ね、1ページ下段に記載しておりますように、今後の生徒数の推移などから、小規模校3校の存続は難しいこと等の理由により、これから何十年も先のことを考えると、市内4中学校の統合が望ましいのではないかという結論と、2ページ上段に記載の配慮が必要であるとの意見が示されました。

これらの結果等を踏まえ、方針案をまとめ、「おおよそ10年後を目途に市内4中学校の統合を進めるため、具体的な協議を進めたいと考えています。」としております。

次に、「Ⅱ 方針の策定」では、目的、方針の期間についての記載があります。

目的は、社会という集団の中で生きていくことを、間近にしている中学生にとって、多様な価値感に触れ、たくさんの経験を積み重ねることは、豊かな学びや健やかな成長を育む上で重要であるとし、4校統合に向けた方針の期間を、令和7年からおおよそ10年後までの期間とさせていただいております。

次に、「Ⅲ 中学校の現状と課題について」現在から、令和18年度の生徒数、学級数について、表にまとめたものを載せています。

適正規模としている20人を大きく下回る学級には色をつけて示しております。

今からおおよそ10年後である令和16年度には乙、築地、黒川の3校において、ほとんどの学年で20人を大きく下回る人数となることが推測されています。

続く4ページでは、4校の学校施設の建設経過年数について記載しております。

次に4ページ、「Ⅳ 学校の規模の適正化について」ですが、ここでは、適正規模については、答申のクラス替えが可能な1学年2学級以上を目安とし、1学年2学級が実現できない場合でも、1学級20人以上となることが望ましいということ、適正規模に基づいた今後の見通しが、令和14年度以降に1学級20人を大きく下回る状況が続くことになるため、統合の必要性についての記載があります。

次に、「Ⅴ 統合について」です。ここでは記載のように、市立中学校の適正規模を確保し、市内中学校の望ましい教育環境を整備するため、4校統合という統合方針を挙げ、考えられる主な7つの効果や統合年度をおおよそ10年後とすること、統

合後の生徒数の見込み、学級数と統合に向けたスケジュールを挙げています。

統合に向けたスケジュールについては、記載の通りでございますが、方針については、総合教育会議での協議内容を受け、調整後、公表を予定しております。

そして、5ページから8ページにかけて、「中学校の設置場所と通学方法について」、「地域とのつながり、活動することについて」、「きめ細かな教育を継続することについて」の3つの配慮すべき事項を挙げております。

初めに、6ページ。1つ目の「中学校の設置場所と通学方法について」は、記載しております3つの場所を候補地とし、それぞれのメリット・デメリットや配慮すべき事項を挙げております。なお、設置場所については、令和7年度に設置を予定しています「準備委員会」において、3つの候補地を中心に検討を進めて参りたいと考えております。

次に7ページ。2つ目の「地域とのつながり活動することについて」は、統合に当たり地域とともに歩む学校づくりが継続されるよう、配慮すべき事項を3点挙げております。

最後に、3つ目の「きめ細かな教育を継続することについて」は、統合で生徒数が増えることにより、きめ細かな教育が行き届かなくなるのではないかということに対する配慮事項を3点挙げております。

そして、8ページでは、統合までに配慮すべきこととして、統合までの間について、中学校間の交流、学区の小学校や地域の方々等との交流を充実させる取組を行うとした、配慮事項を挙げております。

また、現在の校舎については、当然のことながら教育活動に支障をきたさぬよう万全を期す旨、記載しております。

以上で方針案について、説明を終了させていただきます。

○ 市長

ありがとうございました。

ただいま説明をいただきました。

「胎内市立中学校の統合に関する方針(案)」について、皆様方からご意見やご質問、忌憚のないところで、何かありますれば頂戴したいと思います。

いかがでしょうか。どうぞよろしくお願いします。

○ 桐生委員

市長の挨拶にありました、子どもたちの豊かな学びのところ、これが大前提の目的であるし、そのための統合であるというような趣旨がこの方針案には盛られていると感じております。

その中で、統合による効果の話が7つありましたし、それから統合までの道筋に向けて、そして統合してからの地域との繋がりとかそういうようなところが、やはり

しっかりとしていく、明確な形の中でそれが充実していくことは、統合というその目的を達する時の不安を解消していく大きなキーになると思うんですね。

ですから、あくまでも統合は、子どもたちの豊かな成長のためのものなんだというように目的に向かって、ここに出されている地域との繋がりだとか活動だとか、それから、統合までの間に配慮すべきこと、このことをしっかりと充実させていく、そういうような歩みを進めていただきたいし、それが弱くなってしまうと何のための統合だっていうようになってしまいますので、そこはやはり私たち教育委員も、心していかなければならないところだというように思います。

○ 市 長

ありがとうございます。

ただいま桐生委員の方からお話がありました。

おそらく、この点について皆様方も異論なきところかなというように私はお聞きしながら感じておりました。

何のために、誰のために、統合という方針が求められているのか、そして付随する事柄について十分配慮しないと、せっかくの目的も進めていく中で様々な大切な事柄がともすると色あせたり、失われたりしてしまう。そういうことがあってはいけないというご指摘も含まれていたと思います。

それは地域の繋がりであったり、様々な活動、そして、今現在行っていたいくきめ細かな教育を、決して絶やすことのないようしっかりと継続していく、そういうことをこれからの歩みの中でなお確実にし、深化させていかなければいけないということなのだろうというように感じております。

ほぼほぼ集約をいただいたようなご意見でございましたが、その他皆さん何かございましたら、お伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

○ 佐藤康広委員

築地地区の教育委員の佐藤です。私も桐生委員さんと同じような考えです。

この方針案を事前に配付されたので、よく読みましたけれども、基本的にはこの方針案で進めて欲しいということであります。

要は、大切な胎内市の宝である子どもたちを、いかに健やかに育てていくか、それにはやはり中学校の統合。母校がなくなるという寂しい思いをされる地域の方もいらっしゃると思うんですけども、やはりこの少子化を見ると、どうしても統合して、教育活動を充実させなければならないというように考えます。

中学校の統合によって、教育活動の多様化、そして豊かな人間関係の構築、社会性の向上など、その他にもたくさんメリットがあります。

ただ、当然ながらデメリットもあるのは確かであります。

しかし、今後の胎内市を担う子ども達のために、メリットを最大限優先して進めて

いただきたいと思います。

これまでの経緯でも、検討委員会で十分時間を作って検討されています。さらには、その検討結果を市報にも載せ公表しながら、また各地区に回っていただきながら説明していただきました。

私の築地地区でも説明してもらい、全部の声が聞こえてきてるわけではないですけども、やはり私の耳にしているのは、中学校がなくなるのが寂しいと当然誰でもそうだと思いますが、特に60代50代の私らの年代は、母校がなくなるという寂しい思いはしますけれども、先ほど言ったように、子どもたちのためということで、これが公表されてから、反対と思っている人もいるかもしれませんが、声としてあがってきているのはまだ1回もありません。

ただ、聞こえてくるのは、中学校が例えば場所までは決定してませんけども、築地中学校がなくなった場合に、その地域の中学校がなくなるわけですので、やはり寂しいなど。今までの中学校と地域との交流、そういったところ、方針案にも今後の課題とか出てますけども、やはり地域との交流活動を今以上に進めてもらって、高齢化もどんどん進んでいますので、なかなか高齢者が中学校に出向く、体育祭とか学校祭、文化祭、いろんな教育活動ありますけども、今後は少し遠くなるのでなかなか行けない。

ですので、その分、いろいろな課題はあろうかと思いますが、地域活動の連携というのを今後も検討していただき、地域も外されることなく、地域とのふれあいも大切にして欲しいという声は聞こえてくるので、そういったところをやはり今後検討しながら、また、それについても丁寧に説明し、良い案も取り入れながら、すべてを取り入れることは不可能だと思いますが、やれることを可能な限りやって、地域との交流を深めながら、統合を進めてもらいたいと思います。

○ 市 長

ありがとうございました。

先ほども少し論点の中で、整理させていただきました。地域との繋がり、その活動、こういうことは十分、意を用いていかなければいけないといった辺りの指摘としても含まれていたというようにお聞きをいたしました。

私もですね、地域の方々が、この統合によって地域から学校が消えてしまうというような印象、イメージ、それが現実になるということに対して、一抹どころかとても大きな寂しさを感じてらっしゃるという声はお聞きをしてきました。

それは確かにさもありなんといったところがあるのではないのでしょうか。

裏返して考えてみると、それは多分誰にとっても学校というものが、地域のシンボル、象徴的な存在であって、だからこそ、その喪失感のようなものが大きくなりがちであるといったところなんだというように思います。

地域の方の深い思いの裏返しがそういうようになってきているのだらうと思います

す。

一方で、佐藤委員からお話いただいた中にも、もしかしたら含まれているのかもしれませんが、先ほど来のお話のところでも出ていましたが、そこで生まれ育った子どもたちが健やかに成長していく、その姿があつてこそ、地域の皆様にとっても幸せや喜びを感じるのではないかと。そういったこと、そういった精神的な風土を大切にしていってということも、皆さんと本当に時を経て、醸成していく、これが極めて大切なことではないのかなというように思いました。

いずれにしても、これから先の何年間、そして10年後ということの中で考え尽くせることや思い尽くせることを尽くしながら、よりよき統合という方針、これを現実的に皆様によくよく理解していただき、賛同を寄せていただけるような、そういう歩みが先ほど冒頭の挨拶で触れさせていただきましたが、大事になってくるんだろうなというように考えております。

概ね様々な課題があつても皆さんで考えて、そしてそれを乗り越えていきましょうということなんでしょうと思います。

他にもし皆様、さらに何かありましたら、お聞きをいたしますが、佐藤さんどうぞ。

○ 佐藤亜由美委員

中条地区の担当をしています佐藤亜由美と申します。

未来の子どもたちのためにどうするのがいいのかを考えるよい機会を今日はいただきありがとうございます。

方針案を見ていて、設置場所について少し気になりまして、場所が3か所比較されてますけれども、どこになるかということが決まってないとのことで、いろいろメリットだとかデメリットだとかを読ませていただきますと、中条中学校の周辺というのが他の2点よりもかなりデメリットが少ない。費用のことが気になったりして、そうするとこちら中条中学校の周辺だと若干費用が他のところよりも、少なくて済むのかなとこの方針案を見る限りでちょっと思った次第です。

ですので、実際私今まで、何にもお金のこととか考えずに、何となくここがいいのかな、なんていう感じで思っていたんですけど、こうやって掘り下げてみるといい場所なのかなと、少しばかり思いました。

○ 市 長

ありがとうございます。

本当に佐藤委員おっしゃるように、これからいろいろ吟味していく、メリットについてもデメリットについても皆さんで話し合っていく、これが大事であり、費用のことまで触れていただいたわけでございますけれども、そこも本当に大事でございますですね、私自身市長である身としては、そんなふうにも考えていただいておりますが、ただ、ここに関しては、費用は本当に欠くことのでき

ない要素、大切にしなければいけない要素ですが、何よりも、まさに目的に一番合致した豊かな学びと健やかな成長、それだけでは抽象的すぎるかもしれませんが、学校に通う道すがら、子どもたちの通学に関する安全が確保されているか、あるいは、静ひつな環境が保たれているか、ゆとりのある教育設備、施設が整えられるそういった場所であるか否か、そのあたりをですね、様々な方からご意見を頂戴し、それで最適解が無数にあるわけではないんですが、考えられるところをメインにしながら、最適解を求めていくということになろうかと思いますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

委員の皆さんからそれぞれいただいたので、森田委員からも何かありましたらお願いします。

○ 森田委員

乙地区の森田です。よろしくお願いします。今日はありがとうございます。

私もこの統合のことについて、保護者目線で説明会やホームページとか、市報、学校の方でも考え方について、広く丁寧にご説明いただいてとても理解ができております。

私は中学校や小学校で、それぞれ説明を聞きまして、保護者間での温度差を感じております。それは、今の小学校・中学校の保護者は、10年後ということについて、卒業してるし関係ないかなってということでの関心度の低さ。あと、園児の保護者については、逆に少し先のことすぎて、まだ実感がわからないので、統合については、どの保護者も反対はないようです。ただ、どうですかと聞かれたときに、少しイメージがつかないってということで、反対ではないですといった感じでした。

あとは地域の方でいいますと、今、コミュニティスクールが胎内市は進んでおりまして、ボランティアの方々や地域コーディネーターの方々の学校に対しての思いというのが、活動に伝わっておりますので、地域との繋がりというのは、さらに加速しているなっていうように感じております。地域の方々からすると、一部の方では非常にその活動を中心的にされていらっしゃる方々からは、学校がなくなる、子どもがいなくなるという、漠然とした不安というところのご意見としては聞きます。

でも、統合までに配慮することとか、統合してから配慮することというところに、地域との繋がりとか、出向いて行って参加をすることとか、やはり自分の地域でのことを勉強したり、参加することによってその地域の子どもたちの思いというか、ここにある郷土愛というか、この地域ってすごくいいところがあるんだよという思いが、とても今の小学生・中学生の児童生徒にはすごく芽生えているので、ここについては、統合を見据えながらですが、今いる子どもたちに対しても、引き続き配慮しながら活動を止めないでいただきたいことと、統合した後もさらに、その地域に出向くということで、やはり地域の子どもたちは宝であり、学校も宝というところで、そこはとても引き続き大事にしていきたいと思っています。

実際、具体的になっていくとさらに、ご意見とか改善点等々、出てくると思うのでその時も、できれば丁寧にいろいろ一生懸命考えて、目的である子どもたちの豊かな学び、健やかな成長のために、柔軟性をもって、対応できるような体制で向かっていただきたいと思います。

○ 市 長

ありがとうございました。地域の方々がうれしい思いをされる。地域づくりに積極的に関わった方は特にそういったところも強いといったような、各地域の共通項かもしれませんけれども、そういったご指摘が含まれていたというように思います。

その中でも、森田委員の方からは、それぞれが今いる地域、それから他の地域を広く学び合う。そして、様々な地域の様々な文化に関わりをもつというようなこと、今から配慮していくことと、その先に対してもそういった場を大切にしていくことが、ひいては子どもたちのためにも地域のためにもきつとなるのではないかという、そういうお話であったかなと思います。

市長部局、教育委員会部局、学校それぞれが連携しながら、そういったところの機会を増やし場面を充実させていくというように、意識していくことが大切だということと結べますでしょうか。ありがとうございます。

皆さんからいただいたので教育長からも何かあればお願いします。

○ 教育長

私も今回、各小学校を会場に、園、小学校、中学校の保護者、それから地域住民の方への説明を7回させてもらって、その時に最後に、「今後、統合ということで進めさせていただくとした場合、胎内市の中学生や保護者の方々、あるいは市民の皆さんが誇りに思える、他の市町村の中学生も通ってみたいと思えるような、うらやましくなるような、新生中学校になるようにしっかりと準備を進めていきたいと思います。」という話をさせていただいたのですが、今お聞きしてなおさらにその気持ちを大事にしたいというか、強く感じているところであります。

それで、今お話いただいたところでですね、小学生の場合は自分の学区を地域というようなイメージでとらえて、地域に出向いて、そして、学校も元気になる、地域も元気になるという取組を積極的にさせてもらっているんですけども、今、中学校はどちらかというと学区から少し広がって、胎内市全体を地域として、学区を超えて地域の方に出向いて交流するというような動きも出てきておりますので、それは別に統合を意識してるのではなくて、延長線に広がるように見ていくと、本当に先ほど来おっしゃっていたところにも繋がってくるのかなということで、それも確かに大事にしていきたいなと思います。あともう1つは、先日ですね、教育委員で出ていただいた方もおられるのですが、乙中学校に市内の中学校の1・2年生、中条中学校はちょっと人数が多かったのですが、生徒会の関係の子どもたち中心に、他校

は、1・2年生全員なんですけれど、一緒に集まって、交流会をやったんですね。

これは、決して教育委員会がやってほしいと一切言ったわけではなくて、特に乙中学校の先生そして子どもたちが、他の学校の子どもたちとコミュニケーションをとりたいとか、いろんなことを学び合いたいとかいう内からの思いからだったんですね。

それで、コミュニケーションを深めたり高めたいということと、それからやはりリーダー性を高めたいというその目的でやったのですが、これも、要するに安直に統合とはつなげられない、つなげなくてもいいのですが、同じ胎内市の中学生だという思いをやはり醸成していくことも含めて、この交流というのは胎内市が大事にしてきたところで、あえて内から出てきて、そしてそれが発展していく。後で感想を聞いたら、子どもたちからは、「これからもぜひやっていきたい」との感想があったり、先生方は少し荷が重いかなというように見てたんですが、「よかった、ぜひ、今後もやっていきたい」というような意見も出ています。ですから、今後、統合ということと、子どもたち、あるいは学校の内なる思いとをマッチングさせながら進めていくと、先ほど申し上げましたように、他からうらやましくなるような、誇りに思えるような、中学生に、中学校になっていくのではないかな、またなるようにしていきたいという思いを少し強くさせてもらったところであります。

○ 市 長

ありがとうございました。

今、教育長からの話の中でもありましたけれども、子どもたちが、児童生徒が各地域に触れ、各地域を学ぶ。そのことが、実はいずれ胎内市はひとつなんだといったところに繋がっていった欲しい。極めて大切な着眼点ではないかなというふうに思いながら聞いておりました。

胎内市は申すまでもないところで、平成17年に新市として誕生し、今年が、新市誕生から20周年といったところでございます。

私たち大人は、本当に小さな頃からそういう意識で育ってきたかといったら、そもそもそうではないのではなかったかといったところも現実でございます。

しかし、子どもたちは、ここ胎内市で生まれ育ちいろいろな地域を小さな頃から見触れて、そして我々以上にまさに次の世代を担ってくれる子どもたちが胎内市はひとつということ、現実にしてくれる大きな力になってくれるといったことについても、皆様方とともに、地域の方々とともに、大いに期待を寄せていけたら、大変素晴らしいことではないのかなというように感じました。

委員の皆様から、方針については、ご賛同をいただいたというふうに思っておりますし、私自身も、そういったことについて、非常に安心感をもてた1回目であったというように感じています。

○ 佐藤康広委員

この会議の前段の、定例教育委員会の中でも話したのですが、統合するまでの間も当然ながら各中学校で学ぶ生徒がいるわけですので、その生徒たちも今もう少人数になっているわけです。昨日、築地小学校の卒業式に行きましたけれど、卒業生が24人で、その内、制服を見ると地元の築地中学校ではなく、他の中学校に行く生徒も何人か見えたので、築地中学校の1年生は20人を切るのかなと。そうすると当然のことながら、いろいろ問題も出てきます。今、部活動は地域展開という流れで進んでますけれども、都市部は指導者も多いし活動する場所もたくさんありますし近場にある。

ただ、胎内市でみると、特に築地で部活動を指導してくれる人、活動する場所というのは、どうしても都市部に比べると限られてくるということで、中には部活動をするために他の中学に行く生徒も結構いると思います。

その他にもいろいろありますが、統合までの間の中学生に対する様々な保障というかケアというか、それもやはり大事だなってということで、教育委員の方々からも意見が出たので、ぜひ統合前の子どもたちへのケアなどもよろしく願いしたいなということです。

○ 市長

ありがとうございます。

部活動の地域展開といったようなところは、そもそもテーマになっているから二重の関係性が出てくるような気がいたします。

地域に移行する。それから、競技、種目として成り立ち得るのかどうかの問題も、併せて考えていかなければいけない。それはですから、ある種、統合に向けてといった要素もありますし、統合に関わりなくという要素も両方あるのだというように、思い定めながら進めていく。統合までの子どもたちのまさに豊かな学びと健やかな成長をちゃんとその辺りも含んで考えていきたいと思いますということですから、きめ細かさや多様な方々の関わりを、我々も意識しておかなければいけないという、そういうご指摘かというように受けとめさせていただこうと思います。

まさに一番最初に述べさせてもらった何のためにどうするのか、何のために考えていくのか、課題はどういったところにあるのかという本当に大事な部分を、第1回目の本日の会議で、非常に深いところで認識を共有できたということでありがたく感じていますし、これから、今想定している課題とこれからまた新たに見えてくる課題、こういうこともあろうかと思いますので、それは2回目以降に、今日のところを踏まえつつ、また様々な方のご意見も拝聴しながら進めていくということで、結ばさせていただいてよろしいでしょうか。

<全員了承>

○ 市 長

それでは、私の方はこれで議長の任を解かせていただきますが、本日は本当に皆さんから貴重なご意見を頂戴し、重ねてでございますが、大変ありがとうございました。

○ 学校教育課長

ありがとうございました。

それでは、以上で協議題の方は終了であります。

次第ではその他とありますが、その他皆様から何か連絡事項等あればと思いますが、特にないでしょうか。

ないようですので、以上をもちまして令和6年度第1回胎内市総合教育会議は閉会とさせていただきます。

午後4時20分 閉会